

令和4年度第2回 静岡市障害者自立支援協議会会議録

- 第1 日 時 令和5年1月27日（金） 午前10時～正午
- 第2 場 所 駿河区役所 3階 大会議室
- 第3 出席者
（委員） 渡邊英勝委員（会長）、劉瑛哲委員（副会長）、川島絵里子委員、
遠藤智一委員、小久江寛委員、間宮委員、塩田勉委員、中村倫也委員、
池谷佳代子委員、市川靖剛委員、中村章次委員、小野高広委員、
北島啓詞委員、勝又貴美委員
（事務局） 池田保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長、望月障害福祉企画課長、
宮原障害福祉企画課長補佐、大石障害福祉企画課地域生活支援係係長、
越智障害福祉企画課主任主事、大石障害福祉企画課主任主事、
青柳障害者支援推進課長、久保田障害者支援推進課係長、
深澤地域リハビリテーション推進センター所長、
松下参与兼児童相談所長、山本保健衛生医療部長、
松田参与兼精神保健福祉課長、前林精神保健福祉課課長補佐兼相談支援係長、
板倉精神保健福祉課企画係長、降矢商業労政課雇用労働政策担当課長、
蛭名葵福祉事務所障害者支援課長、三浦駿河福祉事務所障害者支援課長、
渋谷清水福祉事務所障害者支援課給付係長、
（専門部会長） 相談支援部会長、地域生活支援部会長、就労支援支援部会長
（相談支援事業所） 静岡市障害者相談支援推進センター、障害者生活支援センター城東、
サポートセンターコンパス北斗、静岡市支援センターなごやか、アグネス
静岡、ひまわり事業団ピアサポート、静岡医療福祉センター児童部地域支
援・相談室「やさしい街に」、静岡市支援センターみらい、清水障害者
サポートセンターそら、障害者相談支援センターわだつみ、はーとぼる、
百花園宮前ロッヂ
- 第4 欠席者 （委員） 飯塚友紀委員
（事務局） 藁澤障害者支援推進課長補佐、大瀧特別支援教育センター所長
- 第5 傍聴者 なし
- 第6 次 第 1 開 会
2 議 題
（1）①地域移行の促進に向けた緊急時及び強度行動障がいのある方の
受入れ体制の整備について
②誰もが安心して地域で暮らすための体制整備について

(2) 静岡市障がい者共生のまちづくり計画（法定サービス分）の実績報告の移行について

3 報 告

- (1) 令和4年度及び令和5年度の各専門部会の活動について
- (2) 令和4年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について
- (3) 台風15号に関する取組状況について

4 書面報告

- (1) 相談支援事業評価について
- (2) 他協議会の開催状況について
 - ・ 医療的ケア児等支援協議会の開催状況
 - ・ 発達障害者支援地域協議会の開催状況

7 閉 会

第7 会議内容

次第4 議 題

(1) ①地域移行の促進に向けた緊急時及び強度行動障がいのある方の受入れ体制の整備について（資料1）

【地域生活支援部会長から説明】

（渡邊会長）

委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

（中村章委員）

施設から地域へという流れの中で、地域での資源であるグループホームの問題点は、非常に大きな事だと感じました。緊急時の対応あるいは強度行動障害の人たちの受け入れが十分に進んでいないこと。この課題の改善のためには、実態を皆で共有しながら進んでいくことが大切だと思います。グループホームの連絡会が清水区で先陣を切って取り組みを始めた事は、前進するための第一歩であり、大きな成果だという風に思っています。そういう中で、今、山本部会長からも説明がありましたが、連絡会にどういった人たちに集まっていたか、どういった立場の人とお話をされているのか、協議会のなかでも見えていないところがあります。情報共有を直接かかわっていない人たちにも見える形でして頂きたいと思っています。グループホームに直接かかわっている支援員、或は運営している人、制度の何が変わり何が大切でどのような事が大変なのか、また運営においてどういう問題点があるのか等が、皆さんにわかっているにもかかわらず共有化されていないという感じがいたします。そのへんを深掘りするような形で、今後進めて頂きたい、よろしく願いいたします。

（渡邊会長）

ありがとうございます。グループホームのことで共有できるとかいう形で、この連絡会が有効なものになるんじゃないかなという気はしています。ご意見ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(遠藤委員)

今、山本さん中村さんのお話を伺っていて、本当に進んできたなっていう感じを受けて、これからこれが機能して発展していくとすごくいい街づくりになるんじゃないかなということを感じております。地域生活支援部会で去年までやっていたグループホームの評価を、今年度からは評価委員会が立ち上がって、専門的に実際に訪問をして評価をするということが、日中サービス支援型のグループホームでは始まっていたりという事で、実際にサービスがどんな形で提供されるのか、どんな環境があるのかということ具体的を知ることができて、それを皆さんで共有することができていることが、この地域移行を進めるにあたってはいいことかなと思っております。そこで気になっているのが、これまで地域移行の形を進めていく中で、精神科の病棟に入院されている方たちが地域に退院をして地域で住むってところのサポートが、やはり話題の中心だったかなというふうに思っていますし、そういった関係で精神科の方々が関係を、医療の方々とか支援課の方の方々とか、そういった方々で中心に議論されてきたかなと思うんですが、やはりその地域移行・地域定着というところを進めていくにあたっては、今回も話題になっていますが、強度行動障害とか発達障がいとか、そういったやはり入所施設が適しているんじゃないかと思われていた方々が、専門性を地域の方々で高めていって、そこでグループホームにも住めるようにして、入所の対象者がたいへんたくさんいらっしゃるという、そういう問題も解決していくってところにも繋げていくように考えると、精神の方だけではなく、知的の中でも行動に課題があるような方々も含めて、それ以外の方々もいらっしゃると思いますが、そういった方々の対応をしていくということになると、地域移行支援部会の中に、そういったそれぞれ分野の方々が集まって議論していくという形になっていくのが望ましいと私は思います。

(渡邊会長)

ありがとうございます。精神それから知的それから身体・そしてそれから発達、色々な方が地域移行をしていくということが重要じゃないかっていうお話がございましたが、これにつきまして中村部会長様は何か、ご意見ございますか。

(中村倫委員)

先ほどの遠藤委員からのご意見につきましては、私も同様の意見であります。地域移行支援部会の中でも、やはり委員から精神障がいのある方以外の地域移行も取り扱ってほしいというようなご意見はありまして、実際にその精神障がいのある方の地域移行はどの程度進んでいるかっていう問題は当然ありますが、ひとまず静岡市内の精神科病院に関しては、いわゆる長期入院者の削減であったりとか、退院率であったりは、厚労省が出している基準をクリアはできているのだろうという認識であります。コロナを終えてなおクリアできているなかで、部会としても偏りなく3障害全ての領域における地域移行を考える場として、考えていく必要があるのかなと思っております。それから、私も一点ちょっと気になる場所では、地域移行生活支援部会でのグループホームの評価委員の方に、地域移行支援部会の委員が二名参加しておりまして、私もその評価

委員の一員として入らせていただいているのですが、グループホームの評価で何件か見させてもらったり、全体を眺めさせてもらったりするなかで、この一覧を見ていただいても、株式会社とか民間の参入が非常に多くなり、どこまで市としてのグループホームの機能というか、どういったことを期待しているのかっていうのが、現場まで伝わっていないような印象があります。具体的に言ってしまうと、例えば日中支援型グループホームであるのに、障がい区分が1とか2とか3以下のような方ではほぼ埋まってしまっているんじゃないかとか、そもそも三障がい受けますよということでオープンされたけれども、問い合わせが多い精神障がいの方・精神科病院の紹介、そういった方でお部屋がほぼ埋まってしまっているような事業所が、散見されていたということです。なので、この辺りが市としてどういう機能を期待しているのかとか、あとは精神科病院とかが安易にグループホームを利用するということが本来の考え方として地域移行と言えるのかどうかということなんです。そもそもの自己決定のところに戻らなければならないから入るしかないという選択が多いのかなと思える現場もありましたので、そういったことを含め、住みたいところに住めるというまちづくりも考えていかなければいけないのかなと思っております。

(渡邊会長)

ありがとうございます。評価委員からの立場からお気づきとか、お考えをいただきました。

(小久江委員)

遠藤委員と中村委員もおっしゃるように、主に地域って捉えるのはやはりグループホームだけではなく、もしかしたら支援とか色々、福祉サービス以外のサービスも含めて考えながら、最終的には一人暮らしとかの実現を視野に入れて活動していきたいっていうところでうちはやっているんですけど、やっぱり今回のやつの身体は、議論に挙がっているようにちゃんと入れていただきたいのと、あとそれに向かって一番重要になるのが、やはり自立するにあたってとか、地域で暮らすにあたっての意思決定ってさっき出たんですけど、意思があっても実際に暮らせる生活能力とかコミュニケーション能力とか、そういうところをプログラムの勉強できるような体制も、一緒につくっていかないと難しいところは、結構身体の人でも自己決定ができていても、実はお金とかコミュニケーションとか利用の仕方・ヘルパーさんとのやり取り、そういうところで困るものですから、あまりその過程の中では必ず、福祉と意思決定とハートのな住む場所っていうのは、やっぱり一緒に考えていっていただけるとありがたいなと思います。

(渡邊会長)

ありがとうございます。社会資源を上手く使うのと、あとはソーシャルスキルトレーナーとそういうこともやりつつ、住まいも確保していくのが難しいですね。勝又委員いかがでしょうか。

(勝又委員)

高齢の分野から見ますと、地域にっていう場合にはグループホームは地域ではないんですね、厳密に言えば。地域に暮らすっていうのは、在宅・自宅で、自分の家もしくは一人暮らし、それが地域で暮らすっていう姿を思い描いていたものですから、最初に会議に参加させていただいた地域移行グループホームっていうのは、ちょっと違和感を感じたっていうのが正直なところです。

色々障がいを抱える中で生活していく中で一つの選択肢としてグループホームっていうのがあるのかなとは思いますが、本当に地域で暮らすっていうことを考えれば、地域でアパートなり自宅なりで暮らして、そして地域の住民と一緒に活動ができるっていう姿が本当に、目指していけるといいなと思います。

(渡邊会長)

ありがとうございます。劉委員いかがでしょうか。

(劉委員)

課題3の方が、地域生活支援部会で共同で、こちらの権利擁護虐待防止部会の方から、少し上げさせてもらっているところであるんですけど、先ほど遠藤委員と中村委員がおっしゃっていたみたいに、地域生活支援部会と地域移行支援部会の連携と言いますか、同じ目的に向かって同じ方向性でやっていくのかということのすり合わせが、非常に重要になってくるだろうなというふうに思っております。そこで虐待ケースの受け入れ等に関しては、権利擁護虐待防止部会の方からも、横乗りの形で利用させていただければ非常にありがたいなと思っておりますと、先ほどちょっと報告もありましたし、後ほど部会の方でも共有させていただきますけど、今後グループホームさんが実際にその虐待ケースであったりを受けるにあたって、どんなところを課題として感じているのか、難しく感じているのかということをお聞きして、勉強会の開催にちょっとご助力させていただければというふうに思っております。そのうえでやはり、先ほども言いましたけど、地域生活支援部会と地域移行支援部会の方でまずグループホームが、施設・病院等からの緊急時の受け入れをしていただく。それと合わせて施設からの受け入れがもしグループホームの方であれば、施設に空きができるからそこで緊急時の受け入れができるとか、流動的に各事業所が関わっていけるようになると、非常に良いかなと思っております。それから、国の厚労省の方針が、一律通過型にグループホームを位置づけようみたいな是非はあるかと思うんですけど、ただ今、やはり勝又委員もおっしゃっていたように、実際の地域っていうのは在宅であったりとか一人暮らしに移行できるのが一番、本当は良いのだと思うので、グループホームが受け入れてそこで安定する、安住するっていうことだけではなくて、そこから先ほど渡邊先生もおっしゃっていたんですけど、ソーシャルスキルトレーニング等、グループホームの方でしていただければ、少し地域に帰っていく方が増えて、それこそ安定的に地域と事業所が繋がっていくという形ができるのかなと思っておりますので、部会の方でももちろん協力はさせていただきながら、ぜひ一緒にやっていければと思っております。

(渡邊会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(川島委員)

資料1-2の下の方にもあるんですけど、私委託の相談として清水区のグループホームの連絡会に参加させていただいているところではありますが、台風15号の被害があったときにも、ちょうどその後に連絡会がありまして、そういった時点での困ったことや上手くいったこと、工夫したことを皆さんで共有していらしかったので、またこの強度行動障害の方や緊急で対応してくだ

さったグループホームさんも、清水区の中でいくつかありますので、今後そういった、どういうふうに受け入れたらいいかっていうところも共有されていけば、強度行動障害のある方も、グループホームでの生活が共有されていくことで、生活がしやすくなるのではかなということ、すぐこの連絡会には期待しているところではあります。

(渡邊会長)

ありがとうございます。皆様、ご検討ありがとうございます。

(勝又委員)

違っていたら申し訳ありません。このグループホームについてなんですが、地域の住民の方々とのくらい接点があるのかなっていうのも、ちょっと気になりました。もし、今後地域で暮らすっていうこと、あと災害のことを考えると、地域の方にも、民生委員さんとか代表の方とかからでもいいと思うんですが、そういう方と顔が見える関係をつくっていくというのは、地域に出ていく一歩になると思うので、ぜひそんな視点も、今ないのであれば加えていただけるといいなと思います。

(遠藤委員)

すみません、もう1つだけお伝えしたいんですが、地域移行で地域の生活を支えていくっていう方の中で、私に関わる方に結構いらっしゃる、職行の利用者さんが、結構地域で住むことについて大変不自由で、支援するのも大変なんですけど、矯正施設から出てこられたりして、更生後の施設に住む方もいますが、いきなり地域にという方も多くて、その際にちょっと独居では厳しかったりということで、グループホームを探したりするんですけど、そういう方たちの地域での生活を考える場にもなってほしいなということを思っています、特に最近悩ましいのは、マイナンバーカードがかなり普及をしてきているんですけど、意味が分からず見せたり貸したりっていうことが大変多くて、その先を追跡できていないので、どんなことに使われている課はわからないんですけど、そういう色々な本人を守る体制が、まだまだ不十分。そこをどうしていくかっていうことも、検討していかなければならないなと感じています。

(渡邊会長)

ありがとうございます。よろしいですか。皆様ご意見ありがとうございます。来年度の地域移行部会では、身体・知的に関しても取り扱っていただきますよう、そのためには部会の体制をまた再検討していただいて、より充実した部会にしていきたいと思っておりますので、体制を再検討していただきたいと思っています。また、ただ今の委員の皆様のご意見を踏まえまして、関係する部会は今後こちらの課題にも取り組んでいただくようお願いいたします。

②誰もが安心して地域で暮らすための体制整備について (資料2)

【中村(倫)委員から説明】

(渡邊会長)

ありがとうございました。それではこちらの議題につきまして、差別や偏見の解消に向けて、

より効果的・法律的なアプローチについて等、ご意見のある方はお願いいたします。

(小久江委員)

今の地域移行の話で、精神の方々が業者に受け入れが難しいっていう話は、実は私たちの事業の中で、一人暮らしをしたいよとか、事業所に連絡すると、不動産屋さんに連絡すると、車椅子で入るのに、車椅子で物件を見せて欲しいよって言うと、やっぱり車椅子で入られると傷つけられちゃうので困りますとか、そういうところを見る前に門前払いされるようなところも結構あったりするんですね。なので、さっきの地域移行のところで、身体の人たちはもう少し声を上げて言う人もいますので、ぜひその辺は協力させていただきたいなど、一緒になってやらせていただくともう少し、宅建協会の人とか不動産屋を敵に回すんじゃなくて、一緒によりよく作る関係を模索するのにいい機会かなと思うので、ぜひ逆にお力添えを身体の人にもいただけたらありがたいです。

(渡邊会長)

ありがとうございます。身体の人でも全く無関係ではないということで、他にはいかがでしょうか。どうですか、例えば令和4年度の活動内容、もしくは今後の活動法人等もご意見等がございましたらお願いしたいと思います、いかがでしょうか。よろしいですか。

(川島委員)

本当に今、感じたことになってしまいうんですけど、最近ヘルパーさんで入ってくださっている方が地域のヘルパー不足も相まって、地域でも人生経験の多い方がヘルパーをやってくさっている方がたくさん増えているので、そういう方たちって地域のコミュニティがあって、繋がりがあったりするので、ヘルパーさんたちに対する障がい理解を進めていくと、より自然な形で地域に広がっていくんじゃないかなってということも感じたので、皆さんにお伝えしました。

(渡邊会長)

ありがとうございます。

(間宮委員)

ありがとうございます。私はずっと就労の分野に携わっていて、例えば10年以上前だと精神障がいの方は働けないみたいな、そういうことを企業さんに言われることがよくあったなと思っていました。当時は、精神の方を雇うと暴れたりしませんかみたいな言葉を実際に言われたりっていうことがありました。ここで言うと、精神の方の中で確かに、大家の気持からするとフラットに考えたら、トラブルになる可能性が高いのかなとか、例えば家賃を滞納するんじゃないかってなったときに、通常の判断で言えば、大家の目線で言えばリスクが高い人というふうに捉えちゃうことが実際に、地域の生活の中でトラブルになった件数がどれくらいの発生率で一般とどうなのかみたいな、数字をもってしめた方が、当たり前のことだけど大家は懸念することだし、そこは検討すべきところだと思うので、そこをしっかりと解消できるような、そういうことなのねみたいなところで、わかっていたらいいようなデータも、やっぱりあった方がいいのかなと思ったのと、やっぱり一人でもそういう人を受け入れたことのある大家さんは、ハードルが高くなってい

と思うので、そうじゃなくてまだハードルが低いというか、ちゃんと説明すればわかってくれることとか、一個一個事例を積み上げていくっていう方しかないかなと、個人的には思いました。

(渡邊会長)

ありがとうございます。具体的な数字で根拠を持ってっていうことですね。

(塩田委員)

研修会、すごくいいと思うんです。ぜひやっていただけたらと思ったのと、その中身として、今の車椅子の話もそうだと思うんですけど、実際のケースとか事例をぜひ入れこんで、私事というふうな形で研修していただけたらいいのかなと思います。あと、もう1つは、研修会に来る方っていうのはやっぱり、意識の高い方なんですよ。なので、そのターゲットをどうするかっていうことで、意識が高い方だけではなくて、もっとより一般層をターゲットにアプローチするっていうことが大事で、虐待はだめだよとかそういうことも皆、わかっていることなので、もうちょっとそれを深入りして、こういった事例があるからこうこうしようねとか、そういうのをもっと一般層に向けてやっておいた方がいいかなと思います。で、もうパソコンだったりSNSの時代なので、色々な情報ツールをよく使って一般層からそういった意識を高めて、そうすると世論が固まっていくので、その中で大家さんがこんなことで断ったらこれはまずいよというような雰囲気づくりを、そういうふうな方向性をぜひ考えていただけたらいいのかなと思います。

(渡邊会長)

ありがとうございます。我が事丸ごとで、一般地域社会にも働きかけていくということですね。ありがとうございます。

(北島委員)

今後の取り組みという事で、民生委員児童委員協議会の集まりの場に出向き、研修等していただけるということで、方針の方示されておりますけども、民生委員児童委員協議会の事務局としても、社会福祉協議会で関わらせていただいておりますので、一点ですけど、昨年12月に、3年に一度の一斉改選ということで、かなりの数の方が入れ替わっております。昨年12月から新しい民生委員児童委員協議会となっておりますので、会長さんの中には、そういった取り組んでが前年の中から続いているよっていうことを承知していない委員の方がいらっしゃる場合もございますので、あとこの部会の方に民生委員児童委員協議会の代表も参加をさせていただいているかもしれないんですけど、こういったような民生委員に対しての働きかけをしていきたいよというような、部会の方針というのは承知をしているんですけど、なかなか民生委員児童委員協議会という組織に対するアプローチが、今のところまだないようなふうに思っています。駿河区の方で各地区の部会の方に、区の中で3つの委託の事業所が、地区の定例会に参加等しながらそれぞれ説明しているというのは、前回報告にあったかと思うんですけど、ぜひ一度市民自協で理事会があつて、その後各区で組織だっているものですから、全体として動くにはやはり、上から下に情報が伝達されていく方が、各地区ともに動きやすい部分もあるかと思っておりますので、ぜひ今年度機会をいただければ部会の方からご説明いただいて、全体として民生委員さんと一緒に地域移行の中の課題等を考えていきたいというような方針を市民自協の場でご説明等いただければ、より民

生委員児童委員協議会としての協力もしていきたいかなと思います。あと、各区の市民自協の中で障がい分野を一年間かけて考えていく、高齢分野子どもの分野、障がい分野あと社会福祉の分野ってということで、色々な分野で色々な委員の研修の場も3回ございますので、そういった場にも合わせて障がいの理解ということで、移行部会の皆様にご説明等いただくという機会があれば、より民生委員に対しての啓発等が進んでいけばいいなというふうにも思いますので、一旦こういう方針でぜひ、民生委員児童委員協議会と連携をしていきたいというふうなことでご説明をいただく場があれば、より効果的な協力ができるのではないかなと思いますので、よろしく願いいたします。

(渡邊会長)

ありがとうございます。

(勝又委員)

すみません。その民生委員さんのことも大事なんですけど、やっぱり「個」の繋がりがあるってことはすごく大事なことで、民生委員さん全体に対してももちろん社協さんにご協力いただく、非常に良いと思うんですが、個別に繋がっていく、さっきのヘルパーさんの話ではないですけど、顔が見えると違うよっていうのはすごく、包括支援センターやっていて感じるものですから、個別に繋がっていくような関係性を作っていく場をどういうふうに作っていくのかというのが1つ、必要なかなと思います。それと、先ほどの車椅子で傷がつくからっていう話を聞いて思ったんですが、障がいそのものではなくて、障がいがあることによって起こることについて、多分大家さんは心配をするんです。例えば、さっきの車椅子で傷がつくんじゃないかとか、大きな声を出すんじゃないかとかっていうのは、障がいのもとにあるから起きてくること、なので起きてくることに対してどんなフォローができるのかっていうことをきちんと示すことと、障がいサイドだけではなくて、大家さんの方でもできることを出してもらえないかなという、そういうスタンスでの話し合いができるような形を持っていけるといいかなと思いました。

(渡邊会長)

ありがとうございます。皆様、ありがとうございました。それでは、いただいた意見をもとに地域移行支援部会で課題解決に向けた取り組みを行っていただければかなと思います。ちょっと皆様に聞きたいことがあるんですが、これらの議題の来年度の協議会での取り扱いについて検討していただきたいんですが、来年度の取り扱いにつきましては、引き続きこの議題として協議を行うか、または、特に方向性に大きな変化がない等の場合は、議題としてではなくて報告として扱うってようなことも考えられるのですが、いかがいたしましょうか。議題で取り組んでいくのか、特に方向性に大きな変化がなければ報告事項として報告を行っていただくということなんですけど、いかがですか。

(中村倫委員)

このスティグマの話は「解決しました」と言えることが果たしてあるだろうかと思っています。おそらく長い戦いになると言えばおおげさな表現になりますが、ずっと続けていかなければならないことにはなるとなっています。これを毎年課題として挙げていくとなると、かなり時間も割

いてしまいますし、一旦ここでご検討いただいたお話の中では、地域移行支援部会の枠の中で取り組むことで、一旦は収めていけるかなというふうには思いました。ですので、2つ目のこの議題に関しては、次年度継続ではなくて、地域移行支援部会の活動の中で触れながら継続して取り組んでいけたらいいなというふうに思いました。

(渡邊会長)

②の方はじゃあ、報告で。①の方も報告でいいですか。

(劉部会長)

基本的には、各部会で取り組んでいただく中で報告をしていただくというのが一番いいかなと思うんですけど、例えば、2つ以上の部会が並行してやっていっているものに関しては、ちょっと図式化したものを報告にのっけていただく等して、こんな感じで並行してやっているよと、事務局の方で手を入れていただけるようでしたら、わかりやすいかなと思います。

(渡邊会長)

報告事項にちょっと工夫を加えると。ありがとうございます。それでは、来年度につきましては、年度内に報告を行っていくという感じにさせていただきたいと思います。

(2) 静岡市障がい者共生のまちづくり計画(法定サービス分)の実績報告の移行について(資料3)

【大石主任主事から説明】

(渡邊会長)

ありがとうございます。このことについて、何かご質問・ご意見はございましたらお願いします。特にないとのことなので、反対意見もないようなので、来年度以降は各年度の第1回自立支援協議会にて、まちづくり計画(法定サービス分)の実績報告を行うということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。では、来年度以降の実績報告についても、自立支援協議会の中で行う形でお願いします。

3 報告

(1) 令和4年度及び令和5年度の各専門部会の活動について(資料4)

【各専門部会長及びまいむまいむコーディネーターから活動について説明】

(渡邊会長)

ありがとうございます。ただいま、各部会の活動実績や今後の活動方針案について、ご説明をいただきました。これらについて、ご意見ご質問、また補足説明等ございましたら、ご発言をお願いします。

(市川委員)

相談支援部会のところで、役割・内容というところが主要課題である、相談支援専門員の数の確保と質の向上を模索・検討するという内容になっているけども、勉強会の方が延期になってしまったというところで、実際その状況というのはどういうふうになっているのか、お聞きしたいです。

(渡邊会長)

ありがとうございます。質問ですね。そうでしたら、相談支援部会のどなたか教えていただけますか。お願いします。

(渡邊委員)

それを増やすってということなんですが、今まで取説とか相談支援事業所に、色々やってくださいませんかとか、そういう取り組みもしてきましたが、相談支援部会だけではそれは難しいということがわかりまして、これからまた勉強会で出た意見等を反映して、関係機関で一緒になって考えていくっていうことができればいいなというふうに思っております。

(市川委員)

具体的に関係機関ってというのはどういうところでしょうか。

(渡邊委員)

関係機関は、委託の方の相談支援部員と市役所、行政の方とかもありますよね。社会福祉協議会とかそういうところにも働きかけをしてお願いができているのかなと個人的には思います。

(市川委員)

ありがとうございます。っていうのは、さつきの方で、一般企業就労が今一步という方で、A型事業所を利用したいよっていう方がいらっしゃるんですけど、そういったところで実際に利用しようとする、やっぱり今までと同じように計画相談に依頼しても、いっぱいだからできませんよっていうふうに断られてしまうケースもあるものですから、グループホームのところでも出ていたんですけど、空床情報を共有する仕組みみたいなものが書かれていたんですけど、相談事業所も増えていると思うので、そういうところの余裕があるところとかを、相談事業所さんとかでも共有していただいて、情報を流していただけるとありがたいんですけど、そういった数字っていうんですかね、どのくらい一杯なんで断るっていうか、そういう数字的なものを知りたいなというふうに思うんですけど、そういうのは難しいんでしょうか。

(渡邊会長)

いかがでしょうか。

(渡邊委員)

すみません。数字的なものは、支援課の方でわかるかと思うんですが、支援課さんの方もこう

いうところが新しくできたので、お願いしてみてもはどうですかとお話も、されてはいますよね。あと、委託の方も、じゃあ資料をいただいてそこから1つずつ連絡を取って連絡してどうですかというところで、打ち合わせはさせていただいております。

(市川委員)

ありがとうございます。また、数字的なもの、以前から問題となっていると思うので、わかるような形にさせていただけるとありがたいなと思いました。

(渡邊会長)

ありがとうございます。他にありますか。それでは、ただいまご説明いただいた方針に従い、今後とも部会を運営していくという事によろしいでしょうか。それでは、それぞれの部会で今後の意見等をよろしく願いいたします。

(2) 令和4年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について (資料5)

【駿河区、清水区から説明】

(渡邊会長)

ありがとうございます。それでは、ここで一旦質疑応答の時間を取りたいと思います。ただ今の駿河区と清水区の説明で、ご意見ご質問等がございましたらお願いいたします。

(塩田委員)

駿河区の、支援が欲しい気になる子っていうのが、委託相談事業所で勉強会っていうことなんですけど、その辺りの方々はある程度知識はあると思うんですよね。実際に繋がらないのはやはり、学校とか園で気になる子が適切なところに繋がらないっていうことは大きいかなと思うので、実際にそういった会を企画するのであれば、もう少し拡大をして、学校なり園なり、さらには医療を含めて巻き込んでやっていくのがいいかなと思います。ぜひ、ご検討ください。お願いします。

(渡邊会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。それでは、ただ今ご説明いただいた方針に従って、駿河区と清水区の事務局、また関連する部会で検討を進めていくということによろしいでしょうか。ありがとうございます。それぞれの事務局で今後の協議・検討をお願いします。

【葵区から説明】

(3) 台風15号に関する取組状況について (資料6)

【事務局 大石障害福祉企画地域生活係長から説明】

(渡邊会長)

ありがとうございます。台風15号に関しましては委員の皆様も、様々なご意見・お考え、感じている課題等があると思います。報告を踏まえまして、ご意見・ご質問等があればお伺いしたい

と思いますが、いかがでしょうか。

(中村章委員)

台風15号による大きな被害出ました。先日、1月14日、静岡県手をつなぐ育成会が、知的障害相談員研修会を開催致しました。そこで清水区の方から、平成24年から25年にかけて、災害時の要援護者台帳を整備する必要がある事から、行政あるいは社協、障害者団体が協議を重ね、災害時要援護者名簿登録台帳作成整備をしました。その後10年が経過しましたが、今回の災害の中で活用あるいは機能出来なかったとの意見が出されました。要因はそれぞれの地域の自治会・防災委員会あるいは行政、社協、障害者団体それぞれが防災のことについては、考えてはいるが、連携が出来ていないところに、大きな問題があるのではないかという意見が出ました

情報の共有、連携をする機会をつくっていかねばならない、そのように感じております。育成会はさっそく、被害の実態調査のアンケートを取りました、どのような事が困ったか、どんなことが不便だったか、自分としてはどんな対応策をしたのか、今後必要な事は何かなど、のアンケート調査をしました。その中でも多くの意見が出されて、今後の防災対策に生かせる提案や、必要な意見が数多く出てまいりました。一つなるほどと思ったのは、台風15号の際に、障がいを持つ子どもの保護者、性別が異なる場合入浴が一緒にできる施設がないので探していたところ、紹介して頂き大変助かったと感想を述べられました。今後同じような災害が出た時に対応して頂くための提案も頂きました。市内のビジネスホテルの、日中の10時から比較的空いている午後2時まで、優先的に利用できるような契約を結んでおく事が出来ないだろうか、そうすることによって障がい児を持っているご家庭でも、お風呂にも性別が違って入れる事が出来る状況が出来るだろうと提案が有りました。そういったものを是非とも有効に活用して、是非とも災害時要援護者の機能を活用できるような体制をつくっていくというようなことを、ぜひお願いしたいと思っております。

もう1点は、このコロナウィルス感染症問題ですが、対策、対応、取り扱いについて、新聞等の報道でされておりますが、5月に第2類から5類に発表されるということが言われています、静岡市としてはどのような考え方をしているのか、少しは検討に入っているのか入っていないのか、もちろん国の出された指針に基づいてやるっていう考え方もあろうかと思えます。やはり先行して考えていく必要があるのではないかと考えます。各部会の在り方や活動の仕方、そういったものを是非とも、ウィズコロナという視点から見ても、どんな形でやっていくのかということを検討していただければ、皆様も安心して色々な活動ができるかなと思えますので、是非とも検討をお願いいたします。

(渡邊会長)

ありがとうございます。本当に、具体的な事例を紹介していただきました。他にはいかがでしょうか。

(小久江委員)

今の中村委員と一緒にいるところはあるんですけど、実際私車椅子に乗っているんで、災害時要援護者の支援台帳にも登録しているんですけど、やっぱり今回停電になったり、私自身はそんなに困らなかったんですけど、まず清水区の相談のところは、今回地域課題にはないんですけど、実

際に相談があったというのは、ご苦労されているんですね。なので、それをちょっと聞いてみたいのと、あと、登録台帳は確かに活用されていないんですね。まあ、活用されていないとかってというのは、色々な問題があって色々な課が関係してくるので、難しいところあるんですけど、相談事業所としてどういう、障がい者自身に実際に情報が、手を挙げて困ったよと言える情報を、どこでどうあげたらいいのか、給水にしても発災時にも生活を立て直すにしても、どこにどう相談していいのかっていう情報とか相談場所を、役所としてどう今のところ考えているのかっていうところと、あとこの災害時に色々な調査を、15号の調査をしていただいているんですけど、今後この調査を元に来年度、報告をどのように考えているのかなっていうところが、1つ質問として聞きたいところですね。

(渡邊会長)

これは質問になりますかね。ご回答をお願いします。

(大石係長)

ご質問ありがとうございます。どこに手を挙げればよいかという質問と、来年度の報告の方向性という形で、2点あったかと思います。どこに手を挙げればよいかについては、決まった窓口というのはないのかもしれないんですけども、困ったということをどこか行政であっても相談事業所さんであってもよいと思います。挙げていただければ、今回我々も出来る限り情報を吸い上げたいということで、照会をかけたたり、事業所さんからのお声があれば即座に対応をさせていただきたいというところで動いてきたつもりではあるんですが、ただ、皆様から課題の方は、ご意見・ご指摘いただいているという現状は、行政としても認識しているところでございますので、来年度以降しっかりと検討の方をしていきたいというところでございます。

(小久江委員)

そうですね。何かしらの形で、この協議会なのかわからないんですけど、全市の連絡会でも協議会でもいいので報告をしていただいて、進捗状況と状況と捉えたっていうのや、私個人的には6月くらいから台風も来るだろうし、9月くらいにはもう1回来ちゃう可能性もあるので、これは結構スピードの問題のような気がします。もう1つ、どこに手を挙げたらいいかっていうことが、明確になるように、要は推進課として具体的な委託相談や、計画相談なのかわからない。そうは言っても、計画相談も委託相談も今、仕事がいっぱいだろうからっていう話になったときに、具体的にするのも少し報告を、どこかのタイミングでいただけたらありがたいと思います。

(渡邊会長)

ありがとうございます。そうですね、どこに手を挙げたらいいかっていうところは明確にしておいた方がいいのかなと思うところと、もう1つはやはり、アウトリーチをして積極的にニーズをつかんでいくっていう仕組みもやっぱり必要なのかなと思います。他にはいかがでしょうか。

(塩田委員)

災害のことを話し出すときりがないので、1点だけ。今回の一番の課題というのは、災害というスイッチが最初に入らなかったということだと僕は思っています。この土曜日日曜日の動きも

そうですし、これが東日本大震災レベルだったらスイッチが入ったのは間違いないんですが、ここまでの被害想定っていうのが、徐々にわかってきて、それで対策本部も立ち上がりずには平時の各課の、障害福祉企画課もそうだと思いますが、平時の活動の継続の中で対応したっていうところが、一番の課題だと思っています。なので、これを今後の課題のところ、対策本部を立ち上げるのか、もしくはこの障がい関係の分野で誰かが音頭をとって、明確な災害なので緊急に対応を各所でやってくださいという号令をかけるのか、そこをどうするかというのを、是非話し合っただけでいいかなと思います。1点だけ、よろしくお願いします。

(渡邊会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

(遠藤委員)

災害のことだけにとどまらなくなってしまうので簡単に一言だけ言わせていただきますが、地域生活支援部会の中の防災のプロジェクトチームに参加させていただいて、色々こういったことも検討してきたんですが、計画相談の事業所として1つ言わせていただきたいことがあります。計画相談の事業所が、福祉サービスを使っている方の情報をわかっている。だから、災害のときのことも色々考えなさいよっていう流れで今、国の方も動いていて、個別避難計画の策定だとか、そういったものを計画相談が中心になってやる形になっています。今回、この被災された方たちからも、計画相談の事業所から、そういった情報を把握しているはずなのにどうですか、連絡一本なかったという声もありました。で、実際にうちの事業所で言うと400人ちょっとのお客さんがいらっしゃる、で、150近くの事業所と付き合いがあって、どこが被災したかもちょっとわからない状況の中で、2本の回線の電話で通常業務をしながらそれをするっていうのは不可能、全員にかけるわけじゃないんですけどね。ただ、被災状況がわからないのである程度、清水区内のところは全部かけなきゃいけない状況だったんだと思います。で、事業所さんからも被災して断水しているからお休みしますよっていう連絡も、本当に100ある中の1件か2件だったと思うんですね。これは、通常の計画作成のところにも関わるんですけど、計画相談の事業所忙しいよねって言う割には、相互に情報共有をするっていう動きが、ちょっと足りないのかな、計画相談の事業所が足りないよ、相談員が足りないよっていう中で、これからは少しサービスを提供して下さっている事業所と計画相談、委託も機関も含めてですけど、全体で相互に支え合うというか、情報を共有するための、両方が努力をして皆で知って皆で支えるっていう形になっていくといいかなと。それをまず数を増やすことが難しいのであれば、そちらの方法を少し強化していくっていうことをお願いしたいなっていうふうに、今回被災したっていうことも含めて、感じています。

(渡邊会長)

ありがとうございます。

(間宮委員)

すみません。今の災害時の対応もそうなんですけど、今の話で言えば、例えばこの日にもう事業所を止めますとか、通常通りやっていますとかっていう情報って、例えば企画課さんに集約す

るって言ってもまた電話とかっていう話になっちゃうかと思うんですね。就労支援部会の方の連絡とかでもよく話が出るのが、共通のサーバー上にあるようなシステムで解決できるようなことって、すごくあるんじゃないかと思っていて、1つこういう会の日程調整1つなんですけど、全て出欠票で取りまとめて、さらに日程を調整してっていうことがあって、だったら3候補くらい出せるようなシステムもありますし、災害時も使えると思うので、そういうネットワーク、システム系で解決できることを、かなり市として用意していただいて、そこに皆がアクセスして、例えば被災状況をただ書き込むとか、同時アクセスして同時に編集ができるのであれば、すぐに一発で把握できて、さらにそこから指示を出せると思うので、そういったことも検討できればいいなと思っています。

(渡邊会長)

ありがとうございます。皆様、様々取り組んでいただいていると思いますが、葵区から挙げてくださった課題など、様々な課題があり、解決に向けてそれぞれが取り組む必要があるということが、今回の協議会で共有できたと思います。現在調整中の項目もあるため、すぐに取り組めるものばかりではありませんが、来年度以降行政で行っている調査の結果が出た段階で課題を整理して、どのような形で取り扱うかを検討していただければと思います。葵区の実践に関しても、先ほどご説明していただいた内容に基づいて、葵区事務局で検討を進めるということをお願いします。

4 書面報告

(1) 相談支援事業評価について (資料7)

(2) 他協議会の開催状況について (資料7)

5 その他連絡事項

6 挨拶

7 閉会